

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500051
法人名	医療法人 健育会
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地	鹿児島県姶良市西餅田139番地4 (電話) 0995-66-2541
自己評価作成日	平成26年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=4>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機関
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・あなたの思いを聴きながら、あなたらしく、ゆつくりと安心した時間を過ごして頂けるように努めていきます。
- ・私たちは家庭的な雰囲気の中で、有する能力に応じた役割(菜園、調理、裁縫)を持ち続ける事が出来るように、一人ひとりに合わせたケアを提供します。
- ・母体が併設された医療法人のため、日頃の健康管理や緊急事態が生じた時は主治医との連携も早くとられ、ご家族様にも安心を得ています。
- ・玄関先には季節の花や野菜を植え、栽培や収穫を楽しんで頂いています。
- また、ホーム内は、季節を感じて頂けるように壁面等の装飾にも取り組んでいます。
- ・これからは、地域の行事などにも参加し、交流を持つことで地域の一員としての、地域や知人との関係が途切れないう、支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・毎日母体医療法人の医師が訪問し健康管理がなされている。
- ・地域との関わりは、自治会に加入して、地域サロンから、「グループホームみんなの家」で行なっている体操を教えて欲しいとの求めに応えるようにしている。踊りやハーモニカのボランティアも受け入れている。
- ・運営推進会議は定期的に行われており、行政や地域の関係者が出席して、事業所の報告や外部評価の報告をして意見交換をしている。
- ・身体拘束について、身体的・精神的な苦痛を利用者がしないように、研修を受けたり勉強会を行なっている。
- ・利用者や家族とコミュニケーションを大切に、行事の時や面会時など機会があれば積極的に話しかけて、家族の意向など話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はオープン時に職員で話し合いを持ち定め、施設内に掲示している。朝夕の申し送り時に唱和し、職員全体に意識づけを行っている。	理念は管理者や全職員で考え作成されている。いつまでも健やかで安心した暮らしと力量に応じたその人らしい暮らしを住み慣れた地域で共に支え共に寄り添える暮らしを掲げている。理念の意識付けを職員会議やミーティングで話し合い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩することで挨拶等で地域の方々との関わりを持つようにしている。	自治会に加入している。事業所で毎朝、行っているいきいき体操を地域サロンに教えて欲しいとの求めを受け入れている。踊りやハーモニカのボランティアもあり、利用者は楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議において、参加者に、認知症ケアの理解を高めるための勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会メンバーに参加可能な日程を尋ね、現在4回開催している。グループホーム運営等理解して頂いた後に、参加者に希望を尋ねながら勉強会も行っている。	運営推進会議は定期的に行われ行政や地域の民生委員、関係者が集まり、事業所の報告や外部評価の報告をして意見交換をしている。介護に関する勉強会の希望もあり実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者に運営推進委員会の出席を頂き、現場の実情や取り組み等を伝え、助言を得る機会を作っている。	地域包括支援センターに空き状況を報告したり、行政に運営推進会議などで実情を報告している。書類関係は直接出向いて提出している。必要に応じ、電話での相談も積極的に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	オープン前と開設後に、身体拘束について勉強会を行い、身体的弊害、精神的弊害、社会的弊害をもたらすことを、全職員が理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、身体的・精神的な苦痛を利用者が受けないように、研修を受けたり勉強会を行い具体的な行為を、全職員が正しく理解し、日常のケアに取り組んでいる。玄関の施錠も日中は開放され、自由に出入りできるようになっている。外に出たがる利用者には行き先を理解してさりげなく対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等での勉強会を含めて、高齢者虐待の意味を理解し、高齢者虐待をしないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員全体での勉強会を実施し、権利擁護に関する制度への理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要項目説明書等を、利用者・家族へ詳しく分かりやすく説明し、質問及び、理解を得て、署名・捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面接時、カンファレンス・行事等で家族と面談する機会を多く持つよう心がけ、要望や意見を尋ね、対応している。また、要望・訴えは記録に残し、職員間で共有し、対応を行っている。	利用者や家族とコミュニケーションができるように、行事の時や面会時などの機会に積極的に話しかけ報告や連絡事項、家族の意向など話しやすい環境を作り取り組んでいる。必要な会話記録は残し全員で共有できるようにして運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的な会話の中で意見を聞いたり、会議の時は職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、出された意見を参考に、可能な限り運営に反映している。	職員は管理者に日常のケアや個人的にも相談しやすい雰囲気になっている。職員の意見が活かされ反映されるような体制になっている。ケアの質向上をめざし、行事など担当を決めて運営を進めているので责任意识も高まっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は職員の勤務状況を十分に把握し、労働時間・休みについても希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や法人内研修への参加、年間行事計画に沿って月一回、勉強会を行い、知識を得られるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で開催される勉強会や研修を通じて交流を図り、職員のサービスの質の向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族より、これまでの生活歴・状況を伺いながら出来るだけこれまでの生活に沿った寄り添うケアを実践し、ホームでの生活に慣れていただく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と家族との関係を理解したうえで家族の話をしっかり受け止め、双方それぞれの不安がない関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にそれぞれ面談を行い、現時点で今何が一番必要とされているかを汲み取りながら、必要とされるサービス内容のプラン実施を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(野菜作り、料理等)を見極め、それぞれの役割や出来る事の喜びを味わえるように努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、ホーム内での行事等には声掛けを行い、家族との時間を持つことで家族の一員であることを本人に知っていただき、絆を深める事が出来るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入居前にどのような人生を送ってきたか、生活歴や情報から収集し、入居後も知人の面会や電話など、関係が継続できるように支援している。また、本人の要望に応じて、行きつけの美容院・ショッピング等への支援も行っている。	関係継続の支援により月に1回は自宅に帰る利用者もいたり、お盆や正月は数名の利用者が外泊をしている。帰宅して近所の人や親せきが集まり食事会もしている。馴染みの美容室や散髪に家族や職員と一緒にしている。知り合いの面会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度や性格を配慮した上で席を定め、利用者同士が穏やかに過ごせるように努めている。また、共同で行えるレクや作業に関わることでお互いに支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に、一時支援から外れる本人を見舞ったり、家族との連絡を取りながら、退院後のフォローを続けた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別のコミュニケーションを取ることを大切にしている(居室・入浴時等) 自己発言ができない人などは表情、仕草、動きのサインを見逃さないよう配慮している。	要介護5の利用者が、コミュニケーションが困難であったが、入居したことで家族と喋られるようになり、家族も喜ばれ感動されている。個別の思いや意向の把握を日常の会話や表情で観察し本人本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から聴き得た生活歴や日常会話の中から情報を拾い、その人らしい暮らしが出来ように全職員が共有している。(なじみの美容院・スーパー・医療機関等)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通じて、本人の身体状態を把握した上で、できることを行っている。洗濯たたみ、料理、野菜作り等、個々が得意とする事や役割を見出しケアに結びつけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しは毎月のミーティング時に行い、医者や看護師等の意見を参考に介護計画の見直しを行っている。 本人や家族の意向・希望を取り入れたプランを作成し、毎日を活き活きと過ごせるよう支援を行えるようにしている。	日常の生活の記録やミーティングなどで情報を把握して、介護計画を作成している。本人や家族を交えて担当者会議を行い同意を得て、管理者や職員全員が計画を共有して、モニタリングを定期的に行い現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の状態の変化に伴う不穏時の対応等を、要望・訴えノートを設け、記録を残している。また、介護日誌を活用し、職員全体で利用者の状況を把握・共有して介護計画に沿ったケアの実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿った通院介助・外泊・買い物等の要望支援。往診、医療連携等柔軟な支援やサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の立ち会での災害訓練、行事等でのボランティアの受け入れや本人の希望に応じたなじみのスーパーへの買い物支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援する。受診の際には心身の状況やバイタルを伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	入居契約の時、かかりつけ医を聞いて意向を大切に継続している。適切な医療が受けられるように、受診は家族か職員で支援している。協力医療機関と医療連携を行っている。ホームの看護師から担当医に異常や特変時など早期発見に努め連絡をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との契約による医療連携の訪問をとっている。看護師は利用者様の異常時や特変時には担当医に連絡し、適切な診療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には書面での必要な情報を提供して、その後についても相互の情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に向けた対応については、事業所の方針を説明、家族との意向も確認し、同意を得ている。利用者の病気の状態や対応については、医師、家族の意見を尊重した話し合いで治療の方向性を定めていきたい。	終末期に向けた指針があり、入居時に説明し、家族の意向を聞きながら共有し同意も貰っている。重度になっていくとともに、段階的に家族の協力のもと説明を行い、担当医や職員の共有化を図り終末期に向けて進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命救急の研修や事故発生時の対応は社内研修を行っている。今後も定期的にホーム内勉強会を実施していきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、避難訓練を定期的に実施している。ホーム内研修等で、地震や水害等は話し合いをもっている。 これからは地震や水害等の訓練も計画されている。	消防署からアドバイスや提案を受け、夜間を想定したり火災やその他の災害についても、地域の協力を得ながら訓練をしている。夜間の定期巡回やコンセンソの点検、緊急通報装置や消火器、スプリンクラーなどの定期点検を行い、備蓄品も揃え災害に備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを図る時には声掛けは同じ目線、会話は笑顔で安心感を持っていただけるように心がけている。居室への入室の際はノック、また私物整理等は利用者と一緒に行っている。	入浴やトイレ誘導などプライバシーを損ねたり、人格を傷付けないように支援している。年長者に敬意を払い会話も馴れ合いにならないようにしている。接遇に関する研修や勉強会を行い、質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表すことが困難な方もおられるが、仕草や表情などから汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を本人のペースで生活していただきながら、一人ひとりの精神状態や体調を考慮しながら本人らしく生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望に応じて、美容院に出かけたり、必要に応じて、訪問理美容サービスを行っている。行事等は、化粧などして楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理教室として、季節の漬物作り、思い出の料理等を入れ、利用者と一緒に食事作りをしている。 誕生会や行事料理の献立は、利用者の意見を聞きながら作成している。	利用者や職員みんなでわいわい言いながら楽しく、料理教室を行っている。お好み焼きを、利用者也エプロンをしてみんなのにぎやかに作っている。蕎麦打ちや漬物、ギョーザ作りもしている。気分を変えて、バイキング料理や季節料理、行事食、外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量、食事量を記録に残し、一人ひとりにあった食事形態と栄養状態に応じた食事を提供し、体重増減にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、入居者の状態に合わせ、見守り、一部介助を行っている。義歯は夜間、洗浄し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン(チェック表)や時間帯での誘導、声かけを行っている。昼間は、オムツから紙パンツ使用に変え、自立支援につなげている。	排泄チェック表を必ず記録して個別的に職員全員が把握して、定期的に声かけしたり、尿意や便意を一人ひとりの仕草や動作を事前に察知して、周りに気づかれないように誘導を促している。自立支援に向けてオムツの使用を減らすようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターン(チェック表)や時間帯での誘導、声かけを行っている。便秘予防の為に、水分・野菜をしっかり摂取しながら軽体操を行い、予防に取り組んでいる。便秘が続いている場合には、腹部マッサージを施行している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時は、ゆっくりとコミュニケーションを図れる場となるように、配慮している。また、入浴中での健康管理の為に水分補給を行っている。入浴を楽しんでいただく計画として、菖蒲湯・ゆず湯などを予定している。	脱衣所はエアコンの設備があり温度調整できるようにしている。風呂場も暖かく準備され、入浴の誘導の時、言葉かけに気をつけて、不隠状態にならないように、気配りをして入浴を促している。入浴順番も希望を聞いて気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よい休息をとって頂くために、室温調整や明るさ、音に配慮している。入床まではテレビをみていただいたり、好きな事をして過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の整理、仕分けを行ったり、処方の変更があった場合は申し送り時に全職員が把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや料理の下ごしらえ、また野菜を作ったり、裁縫などを行うことで、生きがいのある生活が送れるように支援している。また、生活を楽しむ工夫(お茶の談話やレクリエーション)を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の協力のもとで自宅に帰ったり、墓参り、冠婚葬祭、外食・外泊支援が行われるように支援している。 これからは初詣や花見(梅、桜)等の計画もされている。	自宅近くの墓参りや美容室に家族や職員と一緒に出かけている。日常、天候や健康チェックを行い問題なければ散歩やドライブ、近所の店に買い物をしている。外食、季節に応じた花見や日帰りお出かけや外泊など、外出の機会を作り職員と一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族の了解を得て、お預かりという形でとっている。また、管理ができる方は要望に応じて買い物支援を行って、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の要望に応じて、いつでも電話がかけられるように体制作りをしている。また、贈り物のお礼の際は、本人にも電話でお礼をしていただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくりと休むことができるソファを設置し、明るく、清潔でおいのいない空間作りに配慮している。ホールには、季節の花を飾り、壁には季節感を取り入れた壁面を入居者と一緒に作りまた、台所からは、食事を作っている光景や音、また匂いが伝わってくる生活感のある空間となるように工夫している。	ホールは、みんなで作った作品や季節感の出る花が飾られている。台所も見える位置にあり、調理風景や調理の音や匂いがただよう居心地よい共用空間となっている。テレビなどの音量も適切に調整されている。全体的に掃除も行き届き清潔感のある共有の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの間に光庭があり、窓越しにひなたぼっこをしたり、季節の花や野菜を見たりして、空間を楽しんでいる。また、ホールでは、雑誌を読んだり、ソファにてテレビを見たりして、一人での時間をゆっくり寛げるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの寝具、使い慣れた家具家族写真、プレゼント、日用品を持ち込んでいただき、個々の生活パターンに応じた、清潔感のある居心地良く、のんびりと暮らせるような居室作りを目指している。	居室は、家族の写真や自宅で馴染んできた日用品が持ち込まれ、個別にその人らしくきれいに整理整頓されている。本人や家族と話し合いながら落ち着いたくつろげる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安心して移動ができるように手すりを設置しまた、車椅子の走行は自立と安全面を配慮し、環境整備に努めている トイレ・居室は目印で本人が場所の確認が出来るように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない